

平成 27・28 年 雫石町立下長山小学校 研究構想図

【学校教育目標】

- ・心豊かで思いやりのある子
- ・自ら判断して行動する子
- ・心も体も健康でたくましい子

【めざす児童像】

- ・学ぶ対象に興味をもち、進んで課題を解決しようとする子ども
- ・自分の考えを伝え、友達の考えを聞き、考えを深めていく子ども
- ・学習したことを生活や学習に生かそうとする子ども

【児童の実態】

- ・素直で、まじめである
- ・文章を読んで理解する力が十分に身に付いていない
- ・文章の内容が十分に把握できず、その根拠となる文や言葉を見つけることが苦手である

【本校の国語科の課題】

単元を通して子ども達に付けさせたい力を明確にし、より言語活動の充実を図り、読解力を向上させるために確かな読む力を育てる必要がある。

研究主題 確かな「読む力」を育てる指導の在り方
～国語科「読むこと」における言語活動の充実を通して～

研究仮説

国語科の「読むこと」の指導において、次のような手立てをとれば言語活動の充実を図ることができ、確かな「読む力」を育てる指導方法が明らかになるであろう。

I 単元にふさわしい言語活動の位置付け

単元構想の3ステップ

- ◎身に付けさせたい力を明確にした単元構成
- 【ステップ①】その単元で付けたい力を明確にする
- 【ステップ②】付けたい力にふさわしい言語活動を構想
- 【ステップ③】指導案に構想を明記

II 言語活動の充実を図る授業づくり

確かな『読む力』を育てるための指導の工夫

単元にふさわしい
言語活動の位置付け

言語活動の充実

言語活動の充実を図る
授業作り

- 指導事項が確実な定着に結び付いている
- 思考を伴う活動が位置付けられている
- 主体的に取り組んでいる

個への支援

相乗効果

研究推進の基盤 「学級経営の充実」

聞き合い認め合う雰囲気づくり 何でも言い合える集団づくり

雫石スタンダード

1 仮説について

I 『単元にふさわしい言語活動の位置付け』について(仮説①)

単元構想の3ステップ

◎身に付けさせたい力を明確にした単元構成

【ステップ①】その単元で付けたい力を明確にする

身に付けさせたい力を明確にするために学習指導要領(年間指導事項配列表)から指導事項の確認をする。

【ステップ②】付けたい力にふさわしい言語活動を構想する

クラスの児童の実態を把握した上で…

1 第三次の言語活動を実際にイメージし設定してみる。

→第三次での子ども達の言語活動をイメージして設定することで、どこで子ども達がつまづくのか、何が足りないのかを把握し、単元で指導すべき内容を明確にする。

2 教材文で第二次の言語活動を検討する。

→第三次の言語活動に取り組むために、第二次でどんな学びが必要なのか、付けたい力(ステップ1)に合っているか検討する。

3 第一次の言語活動を検討する。

→単元のめあてを明確にして第三次につなげるための見通しを持つ。

【ステップ③】指導案に構想を明記

ゴールから教材研究する

II 『言語活動の充実を図る授業づくり』について(仮説②)

学習過程で言語活動の充実を図るために、主に第二次での展開が重要であると考え。そこで、第三次の言語活動に生きるよう身に付けさせたい力をどのようにして育てるのか、確かな『読む力』を育てるための指導を工夫し実践する。

例①第三次の言語活動と同質のまま第二次で螺旋的に指導

②第三次の言語活動の要素を部分的に取り上げる指導

③第三次の言語活動に生かすための根拠をまとめる指導 等

2 研究の過程で見出された有効と思われる実践例

①サイドライン(中心文、大事な語句、順序を表す言葉等)→ピックアップし工夫したワークシートを活用する。

②説明文の文章構成『初め・中・終わり』が一目でわかるようPCを活用する。

③要旨を捉え、要約文を書く→交流するためにそれを根拠として自分の考えを持たせる。

④実際に作り、絵と文章を対応させ、どの言葉やどんな表現が作るときに役立つかを実感させる。

⑤第三次の言語活動につながるよう第二次で同様のワークシートを活用する。

⑥自分の考えをまとめる際に参考にするためモデル文を提示する。 等